

2017
6月

月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第 154 号-①【基準日 2017 年 5 月 31 日】



🌸 社長メッセージ



今後の投資戦略について

ありがとう投信株式会社

代表取締役社長 長谷 俊介



皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。早いもので今年も6月になりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

先月はフランス大統領選挙が行われて、大方の事前予想通りマクロン氏が選出されたことにより、マーケットにも安心感が広がり、特に欧州株式市場が大きく上昇しました。昨年のBrexit（英国EU離脱）のような事態を避けることが出来て、ヨーロッパは今年いくつかある中で最大のイベントリスクを無事に通過したと言えるでしょう。

運用レポートの見通しの中で詳しく述べていますが、今後の国・地域別の資産配分の中で欧州は新興国と並んで相対的に企業利益の伸びしろのある地域であると弊社では考えております。

さて、5月末にありがとうファンドは、信託約款を変更して新規投資先ファンドを2本追加いたしました。アリアンツ・グローバル・インベスターズの欧州株ファンド2本になります。



現在、ありがとうファンドでは欧州地域に約30%投資しており、投資対象ファンドはニッポンコムジェスト・ヨーロッパファンド1本のみとなっておりますが、今後はアリアンツの2本のファンドにも分散投資することによって、分散効果を効かせて、安定した運用パフォーマンスを目指して参ります。

アリアンツの2本のファンドは、コムジェストと同様にクオリティグロース企業に厳選集中投資する投資戦略を採用しております。運用パフォーマンスについても、直近ではニッポンコムジェストヨーロッパファンドと同等かそれ以上であり、参考指数に対してもアウトパフォームしております。また、信託報酬も0.45%とかなり低くなっております。

投資先パートナーであるアリアンツ・グローバル・インベスターズは、ドイツ発祥の世界最大級の資産運用会社で、強力な親会社のもと、グラスルーツ・リサーチ（草の根・調査）足を使うリサーチによる徹底したボトムアップアプローチで投資先を厳選投資するチーム運用に定評があり、弊社の長期投資のパートナーとして相応しいと考えております。

詳しくは、運用レポートの「ありがとうトピックス」の中でも紹介しておりますのでご覧頂ければと思います。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 304 号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

現在、全国で『ありがとう運用報告会』を開催しており、その中で今後の見通しや運用方針についてお話しさせて頂いております。

今後の投資戦略としては、株式をベースとしながら中長期での資産の成長を目指して国・地域別に資産配分していくことに加えて、景気サイクルやマーケット動向に応じた資産クラスの切り替えも行っていくことを検討しております。

以下の図は現在の投資先ファンドと今後組入れを検討している資産クラス・地域別の一覧表となっております。

株式				債券		金 (ゴールド)
米国	欧州	新興国	日本	先進国	新興国	
ABアメリカン グロース	コムジェスト ヨーロッパ	ABエマージング エクイティ	コムジェスト 日本株	新ファンド 11月末検討中	ABエマージング マルチ※	新ファンド 11月末検討中
キャピタルICA	アリアンツ ユーロランド	ABエマージング マルチ※			キャピタル ETOP※	
新ファンド 11月末検討中	アリアンツ ヨーロッパ セレクト	コムジェスト エマージング				
新ファンド 11月末検討中		キャピタル ETOP※				

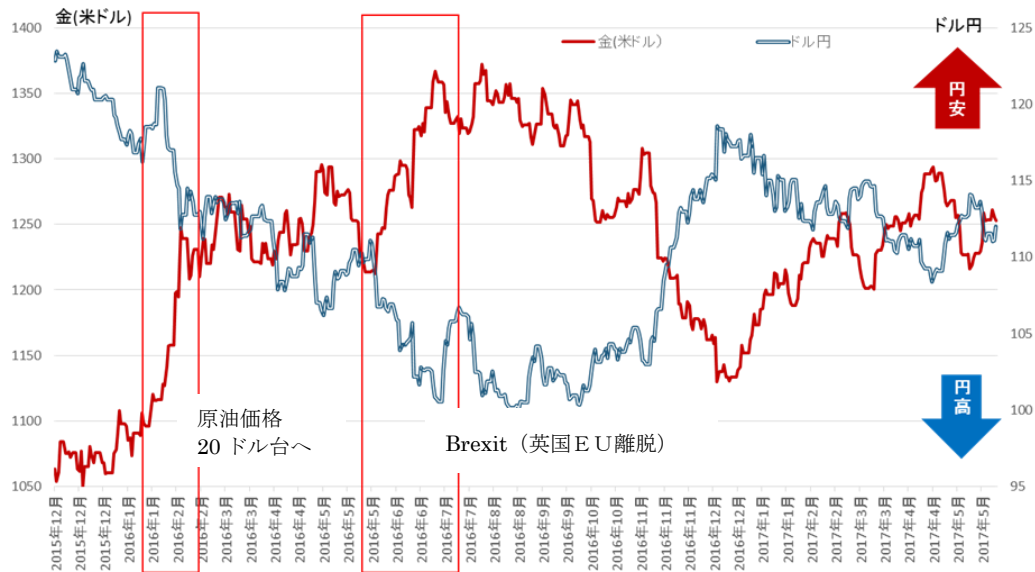
現在、次回の有価証券届出書の提出タイミングである11月末をターゲットに新投資先ファンドのリサーチを進めております。株式については米国株ファンドのラインナップを増やすためにいくつかリサーチを進めております。

また、債券につきましては、先進国債券、主に米国債券ファンドをリサーチしております。しかしながら、米国債券ファンドにすぐに投資するタイミングであるとは考えておらず、あくまでも将来的に今後利上げが継続していった、ある程度の金利水準になり、逆に利下げしていくようなタイミングでの投資として検討しております。

さらに、新しい資産クラスとして、金(ゴールド)への投資も検討しております。金は株式と逆相関する傾向があるため、ダウンサイドリスクの抑制(下落相場で下落幅を抑制)を考えるとキャッシュを単に増やすのではなく、金に一部投資することでリスクを抑える効果を狙っていくことも検討しております。こうすることで、上昇相場では市場平均並みの上昇を目指して、下落相場でダウンサイドリスクを抑制することによって、長期的に市場平均を上回る運用パフォーマンスを提供できればと考えております。

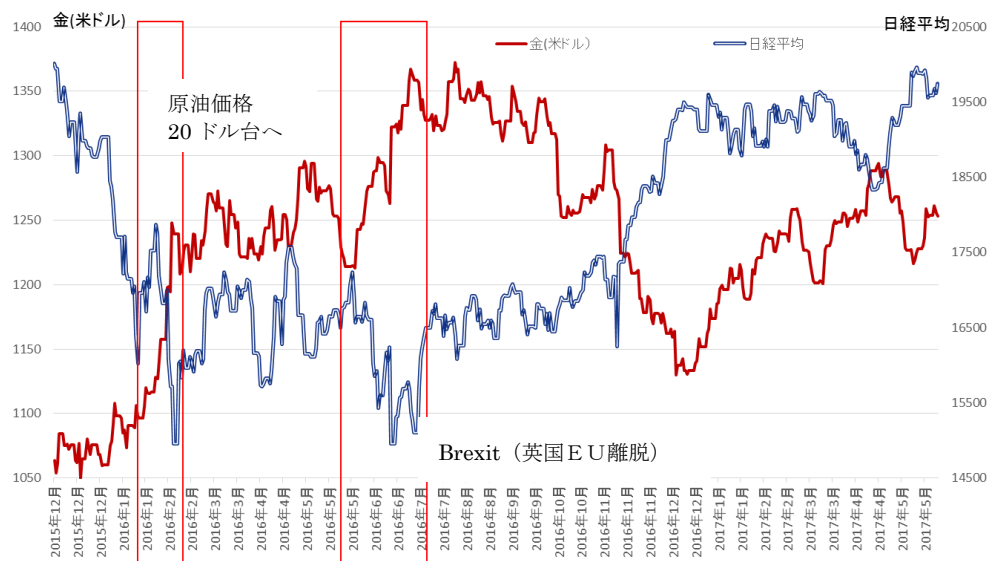
次の図1、2の通り、金はリスクオフ局面で為替(ドル円)、株価との逆相関の関係が見られます。今後、具体化してきた段階でまた詳しく報告させていただければと考えております。

☆図1:ドル円と金は逆相関 ⇒リスクオフ局面の下落相場でダウンサイドリスク抑制



出所:ファクトセットよりありがとう投信作成

☆図2:株式も金と逆相関 ⇒リスクオフ局面の下落相場でダウンサイドリスク抑制



出所:ファクトセットよりありがとう投信作成

ありがとうファンドは、追加型・内外・資産複合(資産配分変更型)ファンドであり、アセット・アロケーションの切り替えを大前提としております。資産クラスの分散もしながら、さらなる長期国際分散投資を進めていき、世界経済や企業の利益成長を享受できるように運用して参ります。

弊社はこれからもお客様の資産運用を一生サポーターできるような努めて参りますので、引き続きご愛顧の程何卒よろしくお願い申し上げます。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

よくわかる資産運用ABC



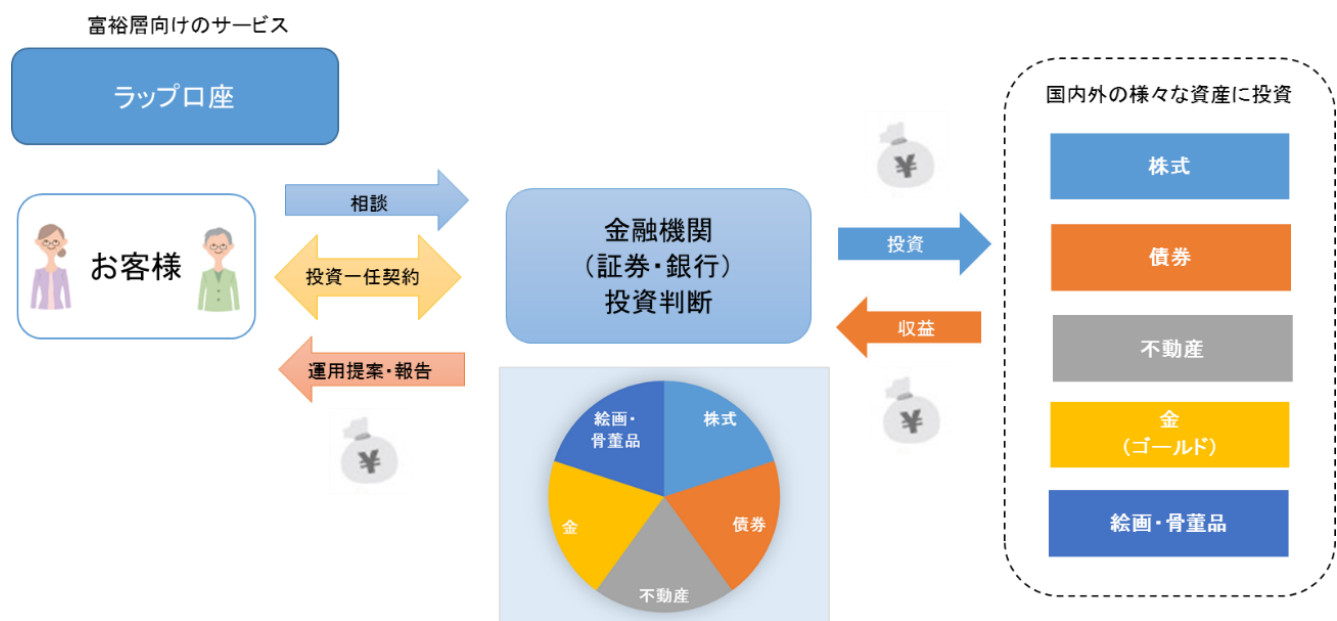
ファンドラップとロボアドバイザーについて ～それぞれの特徴とメリット・デメリット～



今回は、最近よく新聞や雑誌、ネットの広告宣伝などで目にすることが多いファンドラップとロボアドバイザーについて、それぞれの特徴とメリット・デメリットを詳しく見ていきたいと思います。

ファンドラップとは、金融機関と投資一任契約を結んで運用をお任せするサービスで、投資対象商品がファンドに限定されているものをいいます。最低投資金額は数百万円からとなっているものが多く、退職金などまとまったお金が入った定年退職者をターゲットとして数年前から大手証券会社や銀行が営業に力を入れて残高を大きく伸ばしている運用商品です。

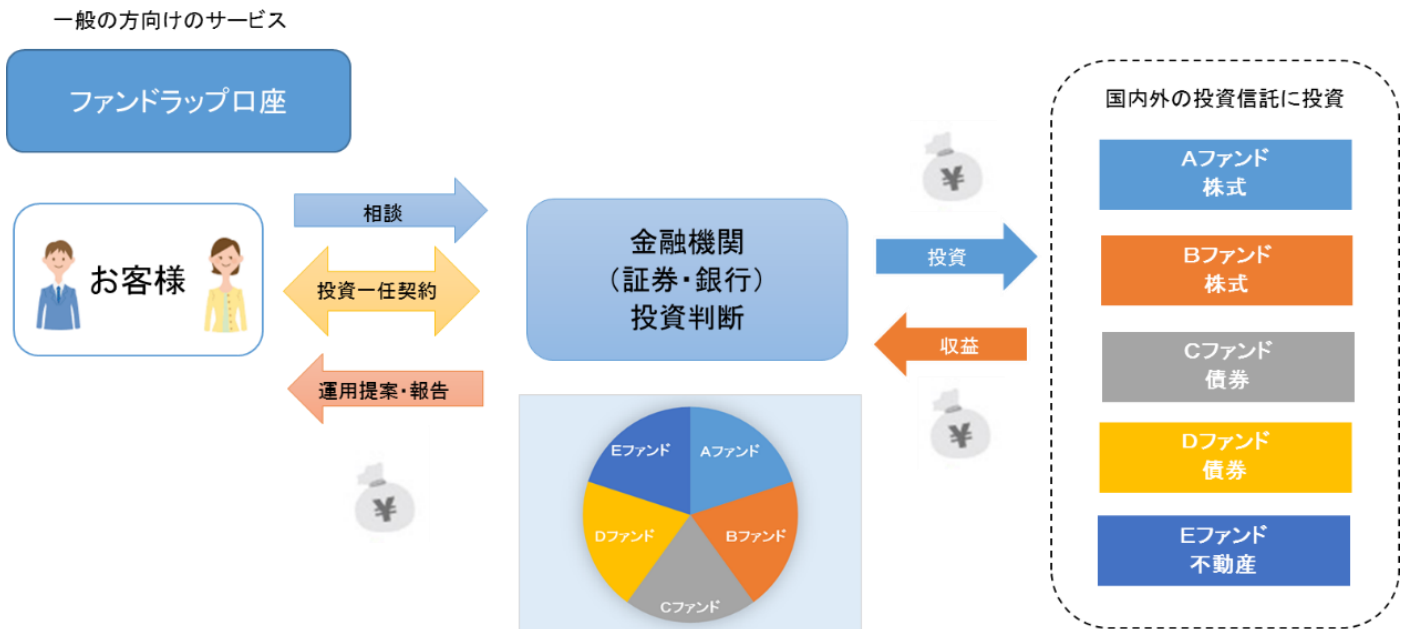
ラップ口座は、もともとは富裕層向けのサービスとして以前からありましたが、最低投資金額が 5000 万円から 1 億円以上の資産を保有している富裕層を対象としたサービスで主にプライベートバンクと言われる金融機関がサービスを提供しております。そのため、一般の方にとっては敷居が高く、お金持ち向けのサービスという印象が強かったように思います。



通常のラップ口座が、株式や債券、不動産、金などに直接投資して資産運用していくのに対して、ファンドラップの場合はいくつかのファンドに分散投資して運用していきます。ファンドに分散投資して運用する点で言えば、ファンドオブファンズ (FoF) と同様であると言えます。

また、ファンドラップの特徴としては、資産運用の知識がなくても専門家に運用を任せられることができること、お客様ごとのリスク許容度や目標、ニーズに合わせた資産配分やポートフォリオを提案してくれて運用してくれることです。

通常の投資信託(ファンド)は同じ商品を多くの人が購入する既製品だとすれば、ファンドラップはお客様毎に合わせたオーダーメイドの運用商品とすることができます。



また、ファンドラップの場合、運用していきながら、計画的に一部換金していく定期受取サービスもありますので、資産活用期の方にとっては、まとまったお金を運用しながら、必要な資金だけ自動的に換金してくれるので便利なサービスだと言えるでしょう。

オーダーメイドの運用商品と聞くと、自分にぴったりで良さそうに聞こえますが当然デメリットもあります。

ファンドラップの場合、通常の投資信託(ファンド)を直接買うよりも手数料が高くなる傾向にあります。投資一任サービスで運用をお任せするので運用手数料が年間で0.4%~1.5%程度、投資するファンドの信託報酬が0.6%~1.5%程度かかり、トータルで最大年3%くらいの手数料が大手金融機関のファンドラップではかかると言われていいます。洋服と同じでオーダーメイドの運用商品なので既製品よりもコストがかかってしまうのは仕方ないと思うかもしれませんが、それに見合った運用をしてくれているのかきちんと見極める必要があります。

ファンドラップの場合、投資するファンドのラインナップがあらかじめ決まっていて、その中での組み合わせでお客様毎のポートフォリオを構築・提案しています。

ファンドラップ専用ファンドを用意している場合もありますが、通常のインデックスファンドが投資対象になっている場合もあります。お任せ運用で高いコストを支払っても得られる運用成果がインデックスファンドの組み合わせであれば、プラスアルファの運用成果を得ることは難しく、運用手数料の分だけ成績がマイナスになると言えるでしょう。本当に利用する価値があるのか冷静に考えてみる必要があります。

また、ファンドラップの運用の中で、ファンドの売買や入れ替え、リバランスを行うとその都度、利益が出ていれば課税されることになります。

一方、通常の投資信託のファンドオブファンズの場合、ファンド内でのファンドの売買等は非課税になるので、課税を繰り延べすることができます。長期での資産運用を考えた場合、同じような運用をするなら、ファンドオブファンズの形態の方がファンドラップよりも税金面で有利になり複利効果を得ることができるでしょう。

また、顧客のニーズやリスク許容度に合わせて資産配分やポートフォリオを提案・構築すると言っても、そもそも顧客ニーズやリスク許容度を正確に把握できなければ、意味のない資産配分やポートフォリオで運用することになり、運用が上手くいったとしてもお客様にご満足していただけない結果となる可能性があります。

例えば、運用が初めてで知識がない人にリスク許容度の質問をすれば、回答が保守的な傾向になり、リスク回避的な資産配分になることが容易に想像できますが、本当にその資産配分で長期で運用することがその人にとっていいことなのか、もしかしたら、きちんと投資教育を受けた上であれば、年齢や収入、保有資産、目的、将来の目標を考慮してもっとリスクをとって運用すべきであったかもしれません。

また、リスク許容度の低い人で既にそれなりの金融資産がある人の場合、高い手数料を支払ってわざわざファンドラップで運用する必要はないと言えるでしょう。

ファンドラップについては、最低投資金額が数百万からになっておりますので、初めての方が投資する対象として考えた場合、まとまったお金を一度に投資することになるので時間分散投資ができず、リスクが高くなる可能性があるのもデメリットの一つです。

このようにファンドラップについては、コストに見合った資産運用アドバイスと運用成果が得られるのか十分に確認する必要がある、通常のファンドで代替可能であればあえて購入・契約する必要はないかもしれません。



次に、ロボアドバイザーについて見ていきたいと思います。AI(人工知能)やFintech(フィンテック、金融とITの融合)と言われるテクノロジーの進歩の中で登場してきたのがロボアドバイザーのサービスです。

米国発祥のロボアドバイザーは、いくつかの質問に答えることで顧客一人一人のリスク許容度を分析して、過去のデータや投資方針に基づいて、最適なポートフォリオを診断・提案してくれたり、最適な資産バランスを保つ売買などを自動で行ってくれるサービスです。投資対象は、主に低コストのインデックスファンドや国内外のETFで、株や債券、不動産などに国際分散投資してくれます。

ロボアドバイザーのサービスは専業ベンチャー企業の資産運用会社から大手ネット証券、大手金融機関まで現在数多くの会社がサービスを提供しております。出資や資本業務提携も盛んにおこなわれており、各社顧客の囲い込みにしのぎを削っている状況です。ロボアドバイザーのサービスは大きく2つに分類することができて、目的やリスク許容度の診断、目標の設定から資産配分の提案、実行、リバランスまですべて自動で実施するものから、診断と提案まで行って実際の投資判断は自分で行うものに分けることができます。

実際の投資まで自動で行うロボアドバイザーサービスは、ファンドラップと同様に投資一任契約を締結することになります。この売買まで自動で行う投資一任型のロボアドバイザーのサービスについて、ファンドラップとの比較で見ていきたいと思います。

どちらのサービスも資産運用お任せ型ですが、人に任せるか、ロボット(システム)に任せるかの違いがあります。どちらが優れているか、好き嫌いの問題もありますが、ここが一番の違いとなります。



ロボットに任せる利点としては感情や心理に惑わされることなく、投資理論に忠実に売買やリバランスを実行してくれますので、例えば、株式市場がリーマンショックのように暴落したときやバブルのように急騰したときなど人間だと恐怖心や欲が出てしまい、迷って売買判断をできない局面でも投資方針に則って運用してくれます。

そして、ロボアドバイザーの方がコスト面で言えば圧倒的に有利です。ファンドラップはトータルで年最大3%くらいの手数料(コスト)になりますが、ロボアドバイザーの場合、トータルで最大年0.9%~1.5%程度となっており、半分以上のコストで済むことになります。

ネット取引に抵抗がなく対面取引にこだわらなければファンドラップよりもロボアドバイザーを利用した方が有利であると言えるでしょう。ファンドラップの高コストの問題点を解決したサービスがロボアドバイザーだとも言えます。

また、最低投資金額も10万円程度からできるものが多く、また、毎月積立契約では1万円からできるサービスもあるので、初めて投資する人にとっても利用しやすく、ファンドラップと比べても敷居が低いと言えるでしょう。

さらに、ファンドラップと同様に、定期自動換金サービスもあり、運用を継続しながら計画的に資産を換金していくサービスもあります。

それでは次に、ロボアドバイザーを利用する際の注意点やデメリットについて見ていきましょう。

多くの会社がロボアドバイザーのサービスを提供していますが、コストや利便性以外の実際の運用の良し悪しについては比較が難しい部分があります。オーダーメイド型の資産運用のため、運用成績はポートフォリオによって変わってくるので同じサービスを利用していても単純な比較ができないところがあります。

また、ほとんどのロボアドバイザーが投資先ファンドとしているのは低コストのインデックスファンドか国内外のETFです。各資産クラスの市場平均パフォーマンス以上のプラスアルファ(超過収益)は望めないで運用成績は資産配分次第になります。各社のサービスにおける最適ポートフォリオの構築ロジックは、いくつかある代表的な投資理論に基づき、過去のデータや投資方針、将来予測も用いて、リスク許容度に合わせて算出していますが、将来予測は難しい部分がありますので、想定通りの結果になるとは限りません。また、各社が採用している投資理論には、決定的な差があるわけではないので、リスク許容度が同じだとすると、ある程度は同じよう資産配分のポートフォリオで同じような運用結果になることが想定されます。

	ファンドラップ	ロボアドバイザー (投資一任型)	投資信託 (ファンド・オブ・ファンズ)
最低投資額	数百万円以上から (300万円程度から)	数十万円以上 (1万円からできるところも)	多くは1万円以上 (ネット証券では数百円から購入できる)
提供機関	主に大手金融機関 (証券会社、銀行)	専業ベンチャー企業 (資産運用会社) ネット証券 大手金融機関(銀行、証券)	資産運用会社 (投信会社)
投資判断	お任せ運用 (金融機関が顧客毎に 最適なポートフォリオで運用)	お任せ運用 (お客様毎に投資理論に基づき ロボットが最適なポートフォリオで運用)	お任せ運用 (各ファンドの投資方針に則り、 運用会社が投資判断して運用)
運用商品	投資信託 (専用の私募ファンドや インデックスファンドなど)	投資信託 (主に低コストインデックスファンドや 国内外のETFなど)	投資信託 (内外の私募ファンド、インデックスファンド、 ETFなど多種多様)
コスト	年2~3% (運用管理費用 +投資先ファンドの信託報酬)	年0.9%~1.5% (運用管理費用 +投資先ファンドの信託報酬)	年0.6%~2.0% (ファンド信託報酬 +投資先ファンドの信託報酬)
	総じて高め	低め インデックスやETF、 自動化によりコストを抑えている	ファンドによってコストはバラバラ インデックスやETFに投資している ファンドは低め
税金	課税口座(特定/一般)のみ	課税口座(特定/一般)のみ	課税口座(特定/一般)の他に NISAやiDeCoでの購入も ファンドによっては可能
購入・換金	一部制限あり 解約日数がかかる 解約後の再購入・契約に時間かかる	提供会社によって異なる (一部制限あり、解約日数が かかる場合あり)	基本的にいつでも購入・売却可能
積立投資	× (基本できない)	○ (1万円から可能)	○ (ネット証券は100円から可能)
定期換金 受取 サービス	○ (可能)	○ (可能)	△ (販社次第・直販は券社のみ)
運用評価	お客様毎にポートフォリオが違いため 他との成績の評価比較は困難	お客様毎にポートフォリオが違いため 他との成績の評価比較は困難	ファンドの運用成績は評価比較可能 (ただし、顧客毎の損益は 購入タイミングにより異なる)

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

また、ファンドラップサービスにも言えることですが、自分が選んだサービスが自分に果たして適しているのか、目標設定に問題はないのか、途中での継続的なフォローや他のロボアドバイザーサービスとの運用成果の比較、客観的な評価をどのようにすればよいのかが課題ではないかと思います。

運用をオーダーメイドでお任せ型できるのは手間がかからずメリットではありますが、どのお任せ型サービスを選択するか見極める知識や経験がないと自分に合っていない、運用成果の良くないサービスに長期でお金を払い続けることにもなりかねません。

また、ある程度、投資経験や知識がある人であれば、ロボアドバイザーの診断や提案は参考程度にして自分自身で投資する金融商品を選択した方がいい場合もあるでしょう。

大半の人がオーダーメイドの服ではなく、自分に合う既製品の洋服を選んで着ているように、資産運用においてもオーダーメイドの運用にお任せするのではなく、多くの人は自分に合う投資信託を選んで購入した方が無難ではないかと考えますがいかがでしょうか。



特に、定年退職して退職金が入った人や定期預金が満期になった人には、金融機関からファンドラップの勧誘があるかもしれませんが、本当に自分に必要であるのか、他の商品と比較してどうなのか、落ち着いて検討して、もしよくわからなければ契約・購入しない方が無難でしょう。

最後になりますが、弊社のありがとうファンドは、はじめての方でもわかりやすくシンプルな運用を心掛けており、長期、国際分散、厳選投資でお客様の資産運用をサポートさせていただくことを目指しています。資産形成期の方には定期積立サービス(<http://www.39asset.co.jp/guide/buy/teiki.html>)を、資産活用期の方には定期換金サービス(<http://www.39asset.co.jp/guide/kankin/lifesupport.html>)のご利用をおすすめしております。

お客様の資産運用相談も随時承っておりますので、是非弊社のサービス、商品をご活用いただき、お客様の資産運用に役立てていただければ幸いです。

積立投資のススメ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです♪

「定期積立サービス」とは…毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。



①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていきながら、複利効果でリターンチャンスとなります。

②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場がいい時もよい時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。



③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。

右の表は過去の実績として、ありがとうファンドを10,000円ずつ1年、3年、5年、12年と定期で積み立てた場合の実際の平均取得単価と損益となります。続けていくほど利益がでているのがわかるかと思います。

期間	平均取得単価	損益
1年	15,503円	12.34%
3年	15,243円	14.26%
5年	12,971円	34.28%
初回(2004年10月)から	10,695円	62.85%

2017年5月31日現在(基準価額:17,417円)

投資信託をいつ買えばよいか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、時間での分散が効果的です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価を平均化されることで、分散の効果が得られます。投資先パートナーであるキャピタルでも投資の心得として“Time, not timing, is what matters”と掲げており時間分散による長期投資の効果の重要性を語っています。



タイミングを見計らうのではなく、時間を味方につけていきましょう！

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。
※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。
※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目録見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

セミナーのお知らせ

参加人数に限りがございます。お申し込みは弊社 HP まで♪ (<http://www.39asset.co.jp/html/seminar/index.htm>)

セミナータイトル	開催日	開催地	時間	講師
【ありがとう運用報告会】 ～深化する今後の投資戦略について～	6月10日 (土)	東京	9:30～ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	6月13日 (火)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】よくわかる投信の年代別活用法 ～ジュニア世代・現役世代・シニア世代～	6月14日 (水)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	6月15日 (木)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【ありがとう運用報告会】 ～深化する今後の投資戦略について～	6月17日 (土)	福岡	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【ありがとう運用報告会】 ～深化する今後の投資戦略について～	6月18日 (日)	長崎	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	6月20日 (火)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】【新シリーズスタート♪】 はじめての投資信託(超初心者向け)	6月21日 (水)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとうファンドの魅力とは ～長期投資と国際分散投資で資産形成～	6月22日 (木)	東京	19:00～ 20:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【ありがとう運用報告会】 ～深化する今後の投資戦略について～	6月24日 (土)	札幌	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう個別相談会(事前予約制)	6月27日 (火)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
【平日】ありがとう新規口座開設個別相談会(事前予約制)	6月29日 (木)	東京	18:30～ 19:30	長谷 俊介 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月22日 (土)	名古屋	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月23日 (日)	大阪	9:30～ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	7月29日 (土)	東京	9:30～ 11:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	8月6日 (日)	仙台	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	8月19日 (土)	札幌	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	9月9日 (土)	福岡	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)
新投資先ファンド紹介説明会 ～アリアンツ・グローバル・インベスターズ徹底解説！～	9月10日 (日)	長崎	13:30～ 15:30	長谷 俊介・真木 喬敏 (ありがとう投信)



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

平成29年度 毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引き落とし口座変更】	【定期の引落日金額を変更】 【定期引落しを中止】	【引落日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
6月分	受付終了	受付終了	6月6日(火)	6月16日(金)
7月分	受付終了	6月26日(月)	7月6日(木)	7月19日(水)
8月分	7月5日(水)	7月26日(水)	8月7日(月)	8月18日(金)
9月分	8月3日(木)	8月25日(金)	9月6日(水)	9月19日(火)

ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

6月	5日(月)	聖霊降臨祭	ルクセンブルグの銀行休業日
	23日(金)	建国記念日	ルクセンブルグの銀行休業日
7月	4日(火)	独立記念日	ニューヨーク証券取引所休業日
8月	15日(火)	聖母被昇天祭	ルクセンブルグの銀行休業日

ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはおお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.972%(税抜 0.9%)の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.6%±0.2%(概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 ※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信(株)カスタマーサービス部まで。【〒110-0005 東京都台東区上野 3-19-4 フリーコール 0800-888-3900】

【レポートで使用している指数の注記】騰落率は、FACTSETよりデータを参照し、弊社にて計算しております。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。S&P500種指数(S&P500)に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人投資信託協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。